

池田 風信子（いけだ・ふうしんし）

1、プロフィール

八戸俳諧倶楽部会長。第十六世星霜庵。八戸俳句会創立同人。北鈴編集同人。解散後は青嶺創立同人。八戸市文化賞、八戸市功労賞受賞。

<生没>

1913(大正2)年1月8日～1989(平成元)年10月27日

<代表作>

『句集 スバルの鏈』『句文集 長者山界限』『句文集 初日記』

油蟬炒るや八月十五日

埒もなき夢ばかり見て明易し

<青森との関わり>

八戸生まれ。戦前戦後を通じ郵便局に奉職。八戸俳壇の重鎮として多くの俳人に慕われつづけた。

2、作家解説

大正2年、八戸町に生まれ、同中学校(旧制)卒業後は、戦前戦後を通じ郵便局勤務のかたわら八戸俳壇の重鎮として多くの俳人を育成した。

俳句とのかかわりは、昭和7年島守静翠居に師事したことに始まる。その後、八戸俳句会、北鈴の同人として活躍。同解散後は、木附沢麦青主宰の「青嶺」に所属。

また昭和45年には、八戸俳諧倶楽部に入会、同47年第十一世花月堂を嗣号。同54年には、第十三世百丈軒を嗣号し、同61年、最高位である第十六世星霜庵を嗣号し、同会の会長に推される。

中央俳壇の賞を目ざす当時の風潮に背を向け、ひたすら地方における伝統を守り独立独歩の道を歩む。しかしながらその作風は、地方性の枠を越え、普遍性ともいえる、いわば人間そのものの本質にせまるものがあった。

句集には、『スバルの鏈』、句文集としては『長者山界限』『初日記』がある。
本名釋(おくて)。享年 77 歳。

3、資料紹介

○『句文集 初日記』

図書

1991(平成2)年 10 月 27 日

195mm × 135mm

昭和 56 年から亡くなる平成2年までの作品(俳句・文章)。遺句集として出版される。伝統的であるが、言葉やさしく、位高く、その重厚さは、タテ句にふさわしい、まさに星霜庵の名に恥じないものがある。人柄というべきであろうか。